



物流ニッポン

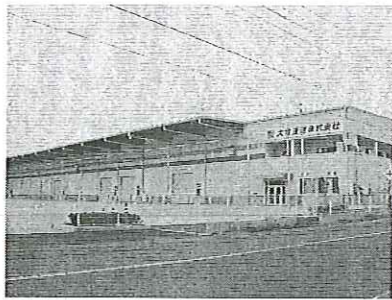
2008年(平成20年)

7 | 28 (月)

発行/月曜日・木曜日 第3152号

購読料/半年32,130円(月額5,355円、税込)

©物流ニッポン新聞社 2008 (昭和44年4月1日第三種郵便物認可)



【黒田秀男】大竹運送 矢吹町)は七月一日からラウンドユース輸送の中継基地となるバンプールを開設した。九月一日から本稼働させる。

海コン中継基地開設 バンプール白河 ラウンド輸送可能

大竹運送

白河倉庫とバンプールが完成
↑
海上コンテナ

東北自動車道 海コン輸送は基本的に片荷輸送となるため、輸出入では長距離運行で長時間労働になるほか、空コンテナ回送など非効率な面が多いのが課題。そとなるトラックヤードは、八千平方メートルあり、五十両の改善には、物流効率化を図るしかない。ラウンドユースすれば、改善も可能」と話している。

仙台と京浜港地区で海コン輸送を行う場合、白河バンプールを活用してラウンドユースを行えば、東北方面は仙台―白河間、関東方面は白河―京浜港間をシャトル輸送(往復)するだけで済む。これにより、空コンテナ回送の無駄を省き、燃料費や二酸化炭素(CO₂)の削減につながるほか、ドライバの労働環境も改善される。白河倉庫は敷地面積一萬五千平方メートル、倉庫の床面積は六千六百平方

大竹社長は「燃料高騰可能」と話している。